

MCLS-CBRNEコース



1

MCLS-CBRNEコース プログラム例

開始時間	終了時間	時間	内容
9:00	9:05	0:05	オリエンテーション・各グループ自己紹介
9:05	9:15	0:10	講義 1 MCLS-CBRNEコースについて
9:15	9:30	0:15	講義 2 CBRNE災害 - 共通の特性 -
9:30	9:45	0:15	講義 3 CBRNE災害 - 災害種別特性 -
9:45	10:45	1:00	机上シミュレーション 1
10:45	10:55	0:10	休憩
10:55	11:35	0:40	講義 4 検知・ゾーニング・防護・除染
11:35	12:25	0:50	昼食
12:25	13:55	1:30	机上シミュレーション 2
13:55	14:00	0:05	休憩
14:00	15:10	1:10	机上シミュレーション 3
15:10	15:20	0:10	講義 5 CBRNE災害 - DMATの活動と連携 -
15:20	15:35	0:15	筆記試験
15:35	15:50	0:15	まとめ

2



MCLS-CBRNEコース

【一般目標】

**あらゆるテロ・特殊災害の現場対応の初動が
通常の活動の延長線上**として適切に実施できる

- 出動時点で、特殊災害への対応であるとわからないことの方が多い
- どの場合でも対応できなければならない
- CBRNEの個別の専門家になる必要は無い

3



MCLS-CBRNEコース

【行動目標】 CBRNEテロ・災害現場の初期対応において

1. CBRNE全てに対して共通の初期活動を理解する
(All hazard approach)
2. 検知・ゾーニング・除染等、CBRNEテロ・災害の特性を理解する
3. 個人防護の重要性を理解する
4. 早期の救助、除染、治療の必要性を理解し実践する
5. CBRNE災害現場において、他の関係機関と連携できる

4

Key Word

Time is LIFE ! 時は命なり

一刻も早く

避 難

救 助

脱 衣

応急救護

逃がせ！

助けろ！

脱がせ！

治せ！

5

線形アルゴリズム

①脱衣⇒②即時除染⇒③放水除染⇒④専門除染

① 脱衣

効果は時間依存性

② 即時除染（乾的除染 と 水除染）

その場にあるものを活用して即実施する除染

* 大局的なリスク評価をして

③放水除染	④専門除染	の必要性を判断
・汚染物質の特性	・除染資源の入手状況	・汚染の範囲
・症状・徴候の悪化	・搬送状況	・被災者がさらなる除染を望むか

③ 放水除染：多人数に対して通常消防装備を用いて
構成した除染法

Ladder-Pipe System: はしご車と消防放水

④ 専門除染：専用除染テントを設置して実施

6

① 脱衣

服に多くの物質が吸収・保持

⇒ 揮発して気道吸入

⇒ 皮膚への浸透

<剤の残留>

脱衣 → 90%除染 = 10%

出来るだけ早く脱衣させる

乾的除染 → さらに90%除染 = 1%

この時点で 99%除染済

放水除染 → さらに90%除染 = 0.1%

* R.P. Chilcott and R. Amlot. PRIMARY RESPONSE INCIDENT SCENE MANAGEMENT (PRISM) GUIDANCE for CHEMICAL INCIDENTS. Volume1: Strategic Guidance for Mass Casualty Disrobe and Decontamination. Biomedical Advanced Research and Development Authority, 2015.

7

初動時の防護：PPE

- 検知器で剤が特定されればレベルC防護具も積極的に使用
- レベルA防護具は緊急使用と活動の機敏性の面で劣るので、救助活動に不適
⇒ 剤の検知と回収には使用するべき

専門資機材なくても救助活動は開始できる

コーススライド

8